

市民自治討論会

討論会は、北海学園大学法学部教授の森啓さんをコーディネーターに、登別市連合町内会会長の山田正幸さん、登別商工会議所青年部会長の太田義則さん、登別市議会議員の石山正志さん、登別市市民自治推進委員会長の田中寛治さん、市総務部長の高田明人さんをパネリストに行われました。また、討論会はパネリストを参加者が取り囲んでのフィッシュボウル形式で行われ、参加者を交えての熱心な討論が行われました。ここでは、その内容の一部を紹介します。

※市民自治フォーラム開催時の役職名でご紹介しています

町内会や関係団体に情報が伝わる仕組み作りが必要



連合町内会会長
山田 正幸さん

町内会や福祉、環境、防犯、交通安全などに関連した関係団体がたくさんあって、それぞれの専門分野について組織の中で活動しています。市民自治推進委員会は、そういう団体とどうタイアップしていくべきかが全く整理されないまま、最高規範として設置されました。

市民自治推進委員会で決まったことを、町内会や関係団体などに伝える仕組み作りが必要だと思えます。

そして、行政側にしても、計画がすでに決まったことについて協力を求めるのでは、協働のまちづくりは成り立たないのではないのでしょうか。

危機感がよく分からないから市民自治の大切さが分からない



商工会議所青年部会長
太田 義則さん

市民自治がなぜ必要なのかが分かりづらいです。それがもつと市民に伝わらないと市民の意識が上がらないのではないのでしょうか。このままではいけないという危機感がよく分からないから、その大切さが分から

ないと思います。

市民が主体となって推進しなければという気持ちを持てるかどうかだと思います。そういう人たちが一人でも増えれば、市民自治が推進されていくのではないのでしょうか。

もう少し根本的なところをしっかりと市民に分かりやすくするといったのではないのでしょうか。

市民との協働を踏まえた議会改革に取り組んでいきます



市議会議員
石山 正志さん

このまちづくり基本条例を制定し



た際に、三つの付帯意見を付けています。一つ目は市民自治推進委員会の組織や運営について、速やかに位置付けや役割の範囲を明確にすること。二つ目は基本条例を実効性あるものにするため、推進計画を作ること。三つ目は市民周知を図るため、できるだけ分かりやすい解説文を作成してその条例を周知することです。議会としては条例の趣旨を理解し、市民との協働を踏まえた議会改革を、平成17年から取り組んでいます。

市民の皆さんの話を聞くため、昨年、初めて議会フォーラムを開きました。今後も継続します。

現在、議会基本条例の検討を行っています。市民がパートナーシップを構築できるように、条例にも書き込む必要性を感じます。